

好評につき、再掲載します！

特別寄稿

困難に立ち向かうように 子どもたちを育てる理由

グレッグ・ハリス



C.S.ルイスは、かつて次のように述べました。「私たちが多くを望んだからといって、神はそんなに気分を害されることはない。なぜなら、私たちはほんの少しの望みで満足してしまっているのだから」と。神は、キリスト者としての私たちの人生に最高の冒険を提供してくださっているというのに、私たちは、生ぬるい宗教的日常に満足していることはないでしょうか。

多くの親が、実際のところ我が子に多くを望んではおらず、この世の言う成功に甘んじている気がします。しかし、神は、私たちに高い目標を持っておられるのです。我が子のわずかな才能にスポットライトを浴びせようと躍起になっているステージ・ママとは違います。優れた宝石職人が、金、銀、宝石などの希少な原石の価値を知り、最良に磨き上げようとするように、神は子どもが持っている潜在力を理解し、その使命を果たさせようと高い志をもっておられるのです。私の7人の子どもたちは、お金では買えない宝物であり、私はそれぞれの子どもに、神が与えてくださる最高で最善のものを望んでいます。

では、高い目標を設定するとは、どういうことでしょうか。困難に立ち向かうように子どもを育てることで、私は一体何を達成しようとしているのでしょうか。

子どもたちが、十分読めるようになることでしょうか。いいえ、それでは満足しません。子どもたちには、時代を超えて偉大な著者たちと親しく語り合い、神が歴史の流れを変えるために用いた、過去の深い考えや真理を理解してほしいので

す。真に優れた書物、何より聖書を熱心に読む子どもたちになるよう励ましましょう。

息子や娘たちが単に正しいスペルで書けるようになれば、私は満足するでしょうか。いいえ。子どもたちには、それぞれが活躍する分野で熱心に取り組んでいる人たちと連絡を取り合うようになってほしいのです。もし文才があるなら、現代の重要課題に関する、知的で見事な書物を執筆させましょう。公私を問わず、多くの本を書く著述家へと導きましょう。誰かの書いた言葉を引用できるようにしてほしいですし、また彼らの書いた言葉が引用されるようになってほしいです。

単に筆記試験に合格するために、子どもに歴史を学ばせたいでしょうか。いいえ。子どもには、自分が生きている時代を理解し、銀行口座や投票所、そして実社会の戦場で直面するであろう人生の本当のテストに合格してほしいのです。

教育とは、単なる学問以上のものであり、道徳的人格を形成するものです。自己鍛錬は流行遅れかもしれませんが、決して役目が終わったわけではありません。子どもたちが単に優しく、態度が良く、ピア・プレッシャー（仲間からの圧力）から守られればいいとは、私は全く考えていません。C.S.ルイスの『ナルニア国物語』に登場するアスランは、ただの飼い慣らされたライオンではなく、正義のライオンです。私も自分の子どもたちには、ただのおとなしい人ではなく、正義の人であってほしいし、謙遜で伝道の心を持つ人間になってほしいと思っています。神を恐れぬ人たちの心を

神に向けさせるほどの影響力のある人に育てましょう。

では、結婚と子どもについてはどうでしょうか。私は子どもたちが皆、結婚することを望んでいますし、ジョナサン・エドワーズのように、忍耐強く、深く神に献身した大家族を築いてほしいと願っています。子どもたちの各家庭が、キリストの大使のチームとして献身し、輝くようにさせましょう。

経済面はどうでしょうか。子どもたちがいつか良い仕事に就けるなら、その会社の勤務体制がどれだけ大変で破壊的であっても、それで良いと言えるでしょうか。いいえ。私は、子どもたちがファミリー・ビジネスを始めたり、起業家になったりして十分な収入を得るのを見たいと願っています。今日、何百万という学生たちが、きちんとした仕事が見つかるようにと祈っているのです。それならば、我が子が彼ら全員を雇えるぐらいになるように、準備をさせるのはどうでしょうか。

一番大事な点は、もし子どもたちがまだ罪の中に死んでいて、神の約束から遠ざかっているなら、学業、道徳的人格、しっかりした結婚生活、大家族、経済的自由といったものは重要ではないということです。「罪にふけている世俗的な人間」を育てることがないように、神が私を助けてくださるよう願っています。キリストにある救いは、究極的に重要なことなのです。

偉人伝を読めば読むほど、敬虔な親は違いをもたらすことに気づきます。「三つ子の魂百まで」とあるように、子育てに賢く熱心に取り組むなら、子どもたちは同世代にキリストの影響を与える特別な存在となるかもしれません。でも、もし年老いたエリのように子育てに受け身で怠慢であるなら、私にとっても子どもにとっても悪影響を与えるでしょう。正しいことが何かを知っていることと、正しいことを実行することとは違います。行いのない信仰は死んでいるのです。信仰者であっても時に嘘を正当化してしまうほど、エリ精神は私たちの心に影響を与えています。自分のなすべき義務を理解し、神に従うことができるように私は神の恵みを求めます。

救いは聖別につながっていくはずですが、私は父親として、聖別においても担うべき役割があります。子どもたちがキリストへの信仰を告白し、私と一緒に教会に行くだけでは十分ではありません。生ぬるい者では役に立たないのです。私は、子どもたちの魂の暖炉で豊かに燃える、神の臨在に対する情熱の炎が見たいのです。子どもたちがキリストの弟子の心を持って育ち、御霊の実を結び、いつかリーダーとして仕えるにふさわしい者になり、共同体に必要なが生じた時には、勇気と信仰をもって神の国をしっかりと立て上げてほしいと願います。

「社会性はどうなのか？」と質問する人に対しては、ただ嘆くばかりです。社会性は、昔から両刃の剣でした。「知恵のある者とともに歩む者は知恵を得る。愚かな者の友となる者は害を受ける」(箴言 13:20)。年齢によって分断された社会性は愚かで害のあるものです。無知な仲間同士が集まると、服装、音楽、映画、そしてメディア消費などで愚かな選択をするようになります。それは文化的弊害にとどまらず、道徳的な弊害をもたらします。良識を失った若者文化という波に乗って、愚かさが次から次へと押し寄せて来るのです。

健全な社会性は、家庭や職場や教会において、自分より年上で知恵のある親、また家族と共に生活する時に育まれます。知恵のある者とともに歩むことはライフスタイルであって、プログラムではありません。それは、「昔からの通り道、幸いの道」(エレミヤ6:16)なのです。このようにして、それぞれの世代が次の世代を、神の持つておられる最高と最善に向けて導くことができるのです。

神の最高と最善——それこそが私が子どもたちに願っていることであり、子どもたちを困難に立ち向かうように育てる目的です。厚かましく聞こえたら許してください。でも、子どもたちがただ救われて回心し、教会の椅子に座っているだけの人間になってほしくないのです。伝道者と改革者の中に子どもたちが立つことを私は望んでいます。

それでは白馬セミナーで皆さんにお会いできることを期待しています。